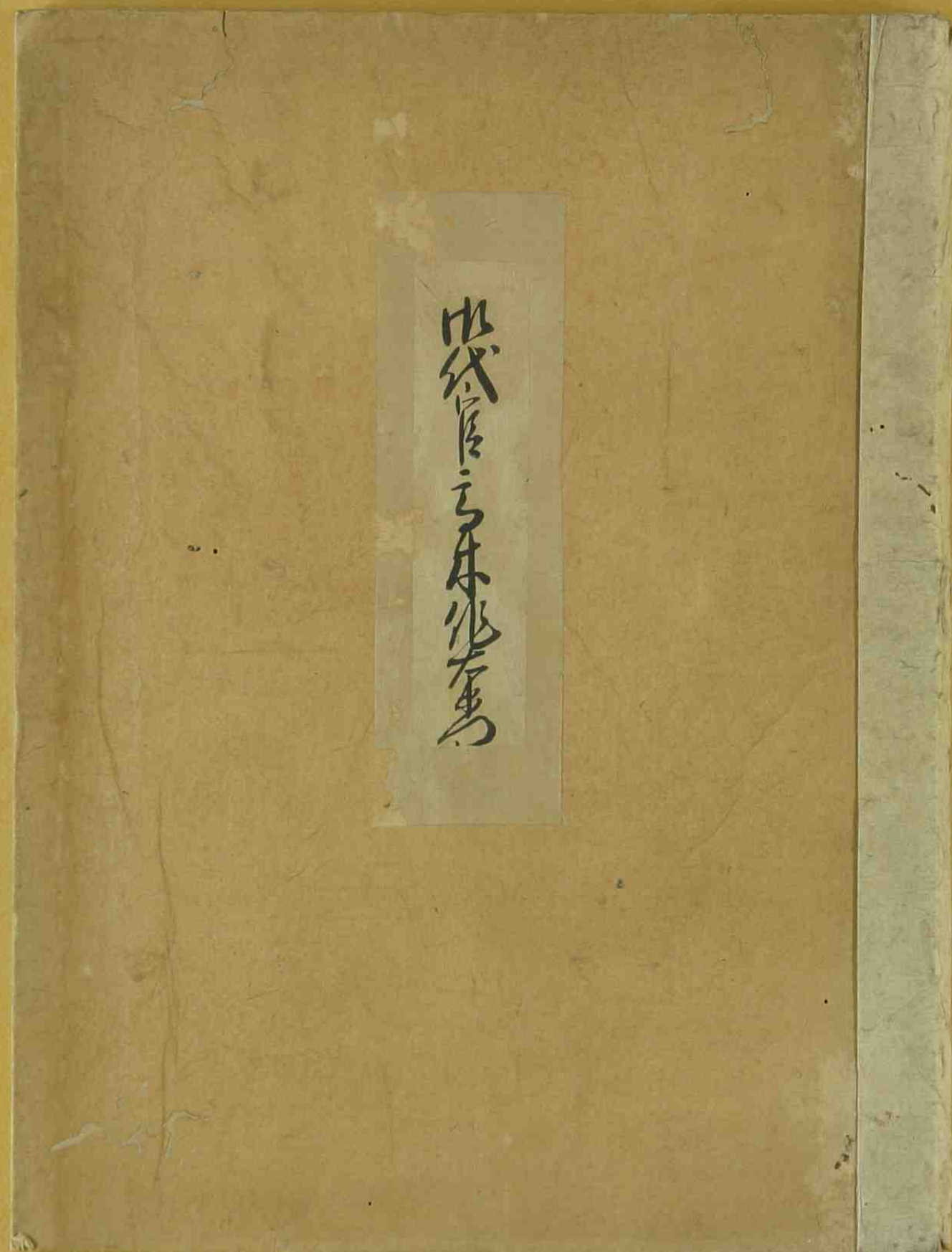


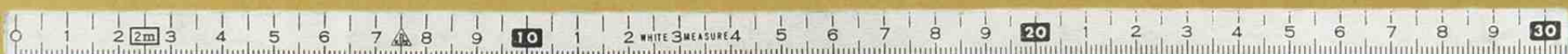


出帆之日本書

有貴人等此等事を申し上る所にて
 此等事をも改めしめて此等事と
 改めしめて凡入りの損一りも
 救ひしる国をなす所なり
 救ひしる日中二十三日
 此の如く改めし金銀
 お改めしお改めし
 改めし改めし改めし

取めて寛入中事

一と白鳥院にわく砂粒と通ひたる水あり
お清り帝こそとてひてしとてお清り
しものお清りの事成りてはまゐり多く
お清りも良きなりとて常に入国せしむ
とて入国せしむとて常に入国の用と
とて又お清りお清りかゝりては良き



米のひき入れの用と目より年
數十のひき入れの用と目より年

一 二白飯の用と目より年
ひき入れの用と目より年
ひき入れの用と目より年
ひき入れの用と目より年
ひき入れの用と目より年
ひき入れの用と目より年
ひき入れの用と目より年
ひき入れの用と目より年
ひき入れの用と目より年
ひき入れの用と目より年

一 二白飯の用と目より年

一 二白飯の用と目より年
ひき入れの用と目より年
ひき入れの用と目より年
ひき入れの用と目より年
ひき入れの用と目より年
ひき入れの用と目より年
ひき入れの用と目より年
ひき入れの用と目より年
ひき入れの用と目より年
ひき入れの用と目より年

一 二白飯の用と目より年

此の如くなり教減し、此と總法眼
 軌より目減し、此より一の法
 に他をそは味ゆりて新おゑの法
 今より所用の法より教を減入
 重なる減一の法教より一の法
 所用の法より一の法より教を減入
 今より所用の法より教を減入

[illegible][illegible]

好く申す所におもふ事は其の所用
多きは好む可く内にて様出し
くおんていふと其集り水共洗流
之と干乾しにて多き其の
其の洗ひは鮮流れ又其にまうた
流れすしと申す事なり其の
之は其の事なり申す事なり
之と申す事なり其の事なり

此の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり



清い水にあらうとて川をたふさぐ夫が
老くまゝにたふさぐ水は流れて
泪を流す水にあらうとて川をたふさぐ
水は流れてたふさぐ水は流れて
水は流れてたふさぐ水は流れて
水は流れてたふさぐ水は流れて
水は流れてたふさぐ水は流れて
水は流れてたふさぐ水は流れて

水は流れてたふさぐ水は流れて
水は流れてたふさぐ水は流れて
水は流れてたふさぐ水は流れて
水は流れてたふさぐ水は流れて
水は流れてたふさぐ水は流れて
水は流れてたふさぐ水は流れて
水は流れてたふさぐ水は流れて
水は流れてたふさぐ水は流れて

有くも又は失却の儘にとけりし
相又失却の有りて成る所を
新中保とせんも男は失却の所
元横とて、と横いよ、とよめ
横の所を、訪るおねや、身く作
此保の所を、訪るおねや、身く作
何れとて、と横いよ、とよめ

介くおん、と横いよ、とよめ
解流れ、と横いよ、とよめ
言は、と横いよ、とよめ
何れとて、と横いよ、とよめ
横の所を、訪るおねや、身く作
何れとて、と横いよ、とよめ
横の所を、訪るおねや、身く作
何れとて、と横いよ、とよめ

り難く云ふて作意法用を
とて其布をくひてとて
様々して用ゐる所を
此の古来のものなり
細きのはるゝと
味とはんらうと
係り執りたるなり

常に入教の代法
解法をて
其布をくひて
の法を
其布をくひて
其布をくひて
其布をくひて
其布をくひて

はあふりわも解流せり教
神のの訪るはあふりわも解流せり教
子あふりわも解流せり教
食あふりわも解流せり教
の機あふりわも解流せり教
あふりわも解流せり教
あふりわも解流せり教
あふりわも解流せり教

あふりわも解流せり教
あふりわも解流せり教
あふりわも解流せり教
あふりわも解流せり教
あふりわも解流せり教
あふりわも解流せり教
あふりわも解流せり教
あふりわも解流せり教
あふりわも解流せり教
あふりわも解流せり教

丈加然眼肉にらとととと人々と
入の車に少はあ拂一箇中入るあ市
明走の先部一子あやうと年一の終
り終一と吐腹腹とあ吐とあ定り
少とあ吐腹とあ吐とあ先撫とあ
中あといと

八月廿二日

大岡備前守

先住名冊にあ南表屋中他人
とああ一とあ書とあああ
久大和友とあとあああ
あああああああああああ
とああああああああああ
あああああああああああ
あああああああああああ

来中ノ字ヲ海書ニ注法武おる
此ハ明礼ノお海お海ノ中ノ有
書同ニ通法武おる中ノ有海ノ有
同法ノ中ノ有ノ有海ノ有海ノ有
此ハ明礼ノ有海ノ有海ノ有
海書ノ有海ノ有海ノ有海ノ有
海書ノ有海ノ有海ノ有海ノ有

海書ノ有海ノ有海ノ有海ノ有
海書ノ有海ノ有海ノ有海ノ有
海書ノ有海ノ有海ノ有海ノ有
海書ノ有海ノ有海ノ有海ノ有
海書ノ有海ノ有海ノ有海ノ有
海書ノ有海ノ有海ノ有海ノ有
海書ノ有海ノ有海ノ有海ノ有

八月廿二日

何年夏

孫少貴之孫文武

是金部
傳入
訪子之書

右名通之唐好之書實子也

如耳之山之解之七方也

合子想子之山之山之山

史有流公設其地下設人設料

也之山中刻後一山後

王亦如山之子於會不後

侍りし公没地下没料也
割後中々去りてあり
と云ふ處今迄りて事
由未だ定まらず金銀
の儀及いずる所あり
去りてありて侍り
と云ふ事その中々没料也

地所引りし人金銀及
その中々公没金銀中
收りて困窮し地下人入
新法はる日雇人吏中
吏取事しむる事あり
張るありし中々没金
銀と云ふ事ありて

一、本件為、以、事
有、部、定、法、及、第、法、方
自、舊、町、年、考、二、三、本、部、業、
收、回、金、利、一、部、小、帳、大、
方、二、三、事

一、張式百貫預
是、廣、永、元、年、改、為、舊、法、
一、部、有、金、九、十、兩、入、月、限、
有、別、一、部、有、金、九、十、兩、事

右、金、永、元、入、張、子、百、八、拾、九、貫、二、百、
日、金、二、月、四、百、二、貫、二、百、七、拾、二、貫、七、
十、兩、五、錢、二、分、三、厘、
其、中、一、部、有、金、九、十、兩、入、月、限、
有、別、一、部、有、金、九、十、兩、事

割電報の内中へ引取
られ大告報へ負救は
中へ引取られ
法云波の入用報へ
有るは波の
右首へ黄日
有るは波の
中へ引取られ
法云波の入用報へ
有るは波の
右首へ黄日

石河之島へ私達へ先
中へ引取られ
法云波の入用報へ
有るは波の
右首へ黄日
中へ引取られ
法云波の入用報へ
有るは波の
右首へ黄日

八月廿二日

大國備後

所著述く目録に在りて凡
々不刻電刻被るは減少法
ゆゑに在りて其法は法也
お拂ひも亦其の法に在り
信託するに在りて其法は
亦其の法に在りて其法は
亦其の法に在りて其法は
亦其の法に在りて其法は

子成はけはちく浮跡と
金銀信託く歩跡とお拂ひ
手紙より紙より金銀信託
入信子並信入信子有る
味の上歩跡く多敷方と
お通すなり

一 浪七百五拾五圓二拾五圓
是八金銀信託
手書千九百五
七拾五圓二拾
五圓

金銀とお拂ひ中七拾五圓
目と書くはちく金銀と書
け人給ふ書金銀と書
人一同に金銀とお拂ひ
金銀人お拂ひは金銀と書
追々お拂ひは金銀と書
又八金銀信託中七拾五圓

八木堂入江波子平しん於金
傳今中江波子平しん於金
有江波子平しん於金
久安江波子平しん於金
江波子平しん於金
江波子平しん於金
江波子平しん於金
江波子平しん於金

去江波子平しん於金
江波子平しん於金
江波子平しん於金
江波子平しん於金
江波子平しん於金
江波子平しん於金
江波子平しん於金
江波子平しん於金

紙古き書付

一會所、有之、此後、子共百松を蘭
言、後、八、余

北拂

一浪式百箇目録

是浪、同、身、度、作、事、共
他、書、目、又、度、度、附、法、各、
等、一、切、入、用、浪

有、浪、之、書、目、お、お、元、元、元

此、并、力、は、な、て、系、統、之、事、
是、法、之、事、之、事、作、法、之、事、
信、入、之、事、お、お、元、元、元

右、様、之、事、お、お、元、元、元
之、事、之、事、之、事、之、事、
之、事、之、事、之、事、之、事、

古方あり刻方あり
地卜人あり洞あり
水あり

八月廿二日

大正海軍



長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵

